

# 液体ヘリウム供給について

2011.1 : 理研 : 小田嶋 豊

私の「液体ヘリウム供給について」の基本的考え方は、電気・ガス・水道と同じように液体ヘリウム供給についても考えている。現在、理研では液体ヘリウムの利用者への供給量は、年間約 13 万ℓ前後の供給がある。多くは液化装置がある南地区と呼ばれている利用者に供給しているが、週 2 回トラックで中央地区と東地区に配達している。しかし、液体ヘリウム汲み出し場所にドライヤー（配管を暖める道具）はない。というより必要としない。次から次へと汲み出す。また、その法が効率も良いのではないかと思うし、繋ぎ（低温カプラ）部分も取り外し易い（非常に冷たいのでプラスチックハンマーとウエス（布）を使用している）。（氷が接着剤になる）

ヘリウム容器は、100ℓと 250ℓの 2 種類で。容器の解造も行った。ねじ込みとシリコンホース、低温カプラ（メス）、回収系にオス、この繋ぎは外すと自動的にバルブが閉じるタイプを使用している。